

大学図書館問題研究会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
(Tel) 075-574-4118

京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Fax) 075-574-4124

情報館(精華大図書館)見学会の ご案内



と き 1998年11月28日(土)
と ころ 京都精華大学 情報館

—今年新しく開設された施設です。図書館と異ならず
「情報館」と名付けられ新しい機能を持たせたとのこと

申込先 最寄りの支部委員、又は事務局長大館までメール又は電話で
(見学終了後、ちと早いけど、忘年会を予定しています。よろしく)

第1回支部委員会で、支部の活動を活性化するために、多彩な企画をたてて、支部会員のみなさんに参加をしていただくことになり、上記企画をしました。集合時間などについては、次号でお知らせしますので、希望者は予定しておいて下さい。

また、9月19日(土)立命館大学 国際平和ミュージアムも見学会も実施しました。これは、急だったこともあり、メーリングリスト「yurikamome」でご案内いたしました。加入者以外の会員のみなさんへは連絡ができなかったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。当日は、7名の方が参加され、若井さん(会員)の案内で「平和ミュージアム」「国連委託図書館・ヨーロッパ審議会委託図書館・国際協力資料センター」そして京都裁判所から移設された「15号陪審法廷」の見学をし、夕刻から近くで懇親会を持ちました。この企画の感想文などは、次号に掲載します。

大阪支部主催研究会のご案内

と き 11月14日(土)
時間 未定(次号)
と ころ 大阪市立大学阿倍野学舎
テーマ 「ILLについて」(仮題)
*詳しくは次号支部報でご案内しますので、参加希望者は予定に入れておいて下さい。

目次	見学会・研究会案内.....	1頁
	大図研全国大会に参加して.....	2頁
	書評.....	3頁
	第1回支部委員会の報告.....	4頁
	連載小説(10)リュウ.....	5頁
次	数珠つなぎ(30).....	6頁
ご意見・ご要望、投稿はメール、又はFAXで 編集気付(kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp) 田北まで		

大学図書館問題研究会第29回全国大会に参加して 「米百俵」の精神

香海沙織

今から 100 年以上も昔、戊辰戦争の戦火で焼かれた城下町長岡は、飢えに貧していた。困窮をみかねた支藩より、救援米百俵が贈られる。ところが長岡藩は、藩士の大反対にありながらも、大切な米百俵を売却してしまう。国漢学校の費用に充てるために。現在の飢えではなく「未来の飢え」を、食よりも教育を選択した「米百俵」の故事をもつ長岡で、大学図書館問題研究会第 29 回全国大会は開催された。

京都から電車にゆられること 5 時間。長岡駅に着くと、懐かしい良寛さまが迎えてくれた。こどもやお年寄りはもちろんのこと、一匹の虫や草木をいつくしむ良寛さまにあこがれた幼いころを思い出す。懐かしい気持ちをのせたまま、さらにバスで 30 分、やっと、大会会場よもやま館に着いた。

全国大会は、1998 年 8 月 22 日(土)～24 日(月)の日程で行なわれた。課題別分科会 10 つ、主題別分科会 5 つ、その他さまざまな自主企画が盛り込まれた今大会に、今年は 111 名の参加があった。京都支部からの参加者は、5 名である。「利用者サービス」・「資料の電子化」・「自然系(理工系/生物・医学系合同)」がわたしの参加した分科会である。

今回初めて設定された「資料の電子化」分科会では、大阪市立大学や山口大学工学部分館等の事例報告なされた。大阪市立大学からは、電子図書館サービスの一機能である森文庫・伏見屋文庫マイクロフィルム画像情報検索システム等について報告がなされた。マイクロフィルム画像情報検索システムとは、インターネット上でマイクロフィルムを検索すると、マイクロフィルムのどこにその画像が格納されているかが検索され、フィルムの該当部分がスキャンされて、磁気ディスクに一時的に保存、その後インターネットへ送付・提供される、マイクロフィルム(16mm)の自動出納装置である。既存資料とデジタル化・ネットワーク利用が見事に融合したシステムだと思う。「なぜマイクロフィルムか」との問いに、「規格の安定性・新規格(新技術)への対応の柔軟性」があげられたのも、興味深い。実際京都に戻ってから同システムにアクセスして見たが、思ったより時間もかからず、「いま、リールがまわって、フィルムがスキャンされている」と思うと感慨深いものがあった。

その他、自然系分科会では、Free で公開されている Medline の紹介と信頼性について、また、九州地区の Web of Science を用いたコンソーシアム試行の紹介は、学ぶところが多く、あつという間に時間が経ってしまった。

どこでも、人・経費・時間がどんどん減って行く中で、ともすればやる気すらも減って行くような状況があちらこちらでうかがえた。このような中、「米百俵」の故事をもつ長岡で今大会が開催されたのは、偶然とは思えない。過渡期にある図書館界で、一番大切なものを常にみきわめていかなければ、ただただ振り回されてゆくような気がする。全国大会での交流・情報交換は、わたしの活力の源となってきた。

いかにしてまことの道にかなはんと ひとへにおもふねてもさめても

良寛

最後になりましたが、お世話になった大会準備に携われたすべての方々へ「ありがとうございました」。

(どんかい さおり 京都大学工学研究科・工学部電気系図書室)

書評 「日本書誌学を学ぶ人のために」

(廣庭基介・長友千代治著 世界思想社)

篠原俊夫

大学図書館問題研究会の古くからの会員で、現在、花園大学で図書館学を講じておられる廣庭基介氏が長友千代治氏と共著で「日本書誌学を学ぶ人のために」を世界思想社から上梓された。タイトルからも分かるように、これははじめて書誌学を学ぶ人のための入門用テキストとして使用されることを想定して、執筆されたものである。

書誌学という言葉が喚起するイメージは、図書館員にとってさえ、いずれかと言えば、堅苦しいうえにかび臭い、マニアックな色彩の強い学問であるということである。

しかし、実際にこのテキストを手にして読みはじめると、入門書だから当然のこととは言え、文章の平明さからくる読みやすさとレイアウトの美しさからくる視覚的な読みやすさが相まって、書誌学自体が思ったよりも興味深く、学びやすい学問かも知れないという印象を与える。書誌学のテキストが、専門用語をのぞいて、これだけやさしい言葉で記述されたことは、多分、これまでなかったはずである。正真正銘、はじめて初学者向きのテキストが書かれたということである。必要がなかったということではない。多分、必要にして十分なテキストを作成することの大変さが分かるから、テキストの必要性は感じていても、実際の執筆までには至らなかったということだろう。ところが廣庭氏が長友氏というまたとない共同執筆者を得て、いいタイミングでこのテキストが書かれることになったということである。結果としてみれば、このテキストが単独の執筆者によるよりも、共著であることによる長所が多くあるように感じる。例えば、単独の執筆者であれば、良くも悪くも個性の強い文章に傾きがちである。文章を相互にチェックしあうことで初学者に理解しにくい表現は、フィルタにかかって書き直されるはずである。その役割なら、編集者がいるから無用だとする考え方もあるだろうが、専門家が相互にチェックする方が当然勝っている。廣庭、長友の両氏が単独で書誌学の入門書を執筆されたら、それぞれの個性が相当程度反映されたはずで、それはそれで興味深い大学ではじめて書誌学を学ぶ学生にとって読みやすいものになったかどうかは分からない。

読みやすさについて言えば、内容的にも必要以上に詳しい記述は避けているし、書誌学の専門用語に関して、難しい漢字には振り仮名をつけるなどの配慮もしている。

特筆しておきたいのは、ふんだんに挿入されている図版と手書きのイラストレーションが簡潔でしかも美しいことである。

余談になるが廣庭さんにお聞きしたところでは、何人かの知人が書誌学の本がこんなに読みやすいとは思っていなかったという感想を寄せられたそうである。また、そのうちの一人の方は、難解であって当たり前の書誌学の本がここまで分かりやすく書かれているのは、名著である証拠だとおっしゃったそうである。

大方の読者の印象もそんなところではないだろうか。ひとことで言えば、誰かが書かなければいけなかった本が最も望ましい形で実現したということにつきる。

最後に、初学者の入門用のテキストに相違はないけれど、当然、図書館員にとって実用にもなり、読み物としても楽しめる構成になっている。一読をお勧めするしだいである。

(しのはら としお 京都大学総合人間学部図書館)

第1回支部委員会の報告

1998年9月8日(火) 同志社大学クローバーハウス (午後7時～9時)

出席：篠原、中嶋、呑海、田北、井上、大館 欠席：竹本

【報告事項】

1. 全国大会 8月22日(土) - 8月24日(月)
 - ・京都支部からの参加者4名(部分参加も含む)・大会参加者 111名
 - ・次回会場：東京
2. 全国委員会
 - ・松井氏、大日方氏は留任とする。・副委員長を1名増やす。
 - ・次回全国委員会 11月1日(日)
3. 会員情報
 - ・現在の支部会員数95名
4. 財政情報
 - ・1996年度会費未納者 2名 ・1997年度会費未納者 8名
5. 「ゆりかもめ」運用状況 ・登録者数 33名

【連絡事項】

1. ILL研究集会(大阪支部主催) 11月14日(土)

【審議事項】

1. 支部委員任務分担について
 - ・支部長 篠原 ・副支部長 竹本
 - ・事務局長 大館 ・支部報編集 田北、呑海
 - ・支部報印刷 田北 ・支部報発送 堤(元支部委員)
 - ・ML担当 呑海 ・研究企画 井上
 - ・組織 呑海 ・財政 中嶋
2. 今年度の活動について
 - 1) 交流・見学会(平和ミュージアム国連寄託図書館)について
 - ・日時 9月19日(土) 14:00-
 - 2) 京都精華大学情報館見学会について
 - ・11月28日(土)見学後早いけど「忘年会」予定
 - 3) 新春合同例会について
 - ・時期 1月上旬 (井上担当)
 - 4) 研究集会について
 - ・時期 来年の春以降
 - ・テーマについては次回支部委員会で話し合う。
3. 支部報について
 - 1) 9月号について
 - 2) 10月号について
 - ・インターネット活用術(1) / 平和ミュージアム見学会報告
4. 次回支部委員会 1998年10月6日(火)



リュウ

作 西田 治

「じゃ、買ってくれるの？」

「あんたがそんなに欲しいと思うのなら」

「わあ、嬉しい！」と圭子は大げさに僕に抱きついてキスをした。

「なんだ！なんだよ。子供の前でイチャイチャするなよ。教育上良くないんじゃないの？」とテレビを見ていたはずの淳一が不満そうに言った。

「いいじゃないか。夫婦なんだぞ」と僕が言うと、美穂がやおら圭子に抱きついて「駄目！美穂のお母さんなんだから」と言う。

「なにいつてんだ。キスしたのは圭子の方からだぞ」

「あっち行け！」と美穂は僕の肩を押しやった。

「美穂にもしてあげるから」と圭子が美穂の頬にキスをし、「これでいいでしょ」と笑いながら言うと「うん！」と美穂は満足そうに頷いた。

「ケッ！やっつけられないよ」と淳一は立ち上がると部屋を出ていった。リュウが表で淳一に同意したように妙な声を出した。

「なんだ。あいつまで一緒になって言うことないじゃないか」

僕は、リュウが僕等の会話を聞いていてあざけったような気がして、けしからんと思った。

上機嫌な美穂が「こら！リュウ！」と叫びながら玄関に走っていった。暫くすると美穂の悲痛な叫び声が聞こえた。

「お母さん！リュウがいじめる！」

「あの野郎！」僕は勢い込んで出ていった。見るとリュウは小屋の中から頭だけ出して寝そべっている。上目使いで飛び出してきた僕を見上げた。僕は拍子抜けしてしまった。

「寝てるじゃないか」と僕が美穂に言うと美穂は抗議するようにリュウを指さして言った。

「違う！お父さんが来たから小屋に入ったの」

リュウの姿が小屋の中に消えた。

「飛びついてきて美穂に長い舌出して噛みつこうとしたの」美穂は真剣な表情である。でも僕は笑ってしまった。

「そうりゃ、いじめてんじゃなくて、美穂を可愛がったんだよ。なあ、リュウ」と僕が小屋に向かって言うと、リュウが急に小屋から尾を振って出てきた。一声吠えたと僕に飛びか掛かり僕の顔をなめようとした。

「わかった。わかった。もういい」と言いながら僕はリュウの舌をさげ、前足を両手で握ってリュウを少し遠ざけ、美穂の方を振り返った。

「なっ！美穂に仲良しになって欲しかったんだよ」と言った。美穂は納得したらしく、今度はそっと手を伸ばし、リュウの頭を撫でた。リュウの方が逆に半分耳を立て、半身に構えて美穂の方を眺めながらじっとしていた。警戒しているようでも、照れているようでもある。安心した美穂が自分の背丈と同じくらいのリュウの頭を小さな両手で挟んで、顔を近づけた。リュウは「やばい！」と思ったのかスルリと美穂の手から逃れると、小屋に入ってしまった。尾だけを小屋の外に向け、挨拶代わりにように振った。

(次号に続く)

